

テーマ：『 学校や地域の自然とのかかわりを通して育む体験的環境教育 』

厚木市立 愛甲小学校

Tel. 046-247-9371

担当者： 鈴木 努



#### ■実践内容：

1年生は、校庭やふれあいの森、ぼうさいの丘などで、まつぼっくりやどんぐり、杉の実などを集めて、工作を行った。神奈川自然保護協会の方や、宮が瀬ビジターセンターの方を講師に招き、ペンダントや人形など児童のイメージする作品が作れるよう手伝いをしていただいた。児童は、造形を楽しみながら、木の実の様々な色や形の違いなどに気づき、自然に親しむことができた。2年生は、校庭にある落ち葉を集め、葉っぱ図鑑を作った。落ち葉をアイロンがけして平らに伸ばす作業では、「麦茶のにおいがするね。」「チーズケーキみたい。」など、落ち葉のにおいの違いを感じる事ができた。その後、自分がアイロンがけした落ち葉について、図鑑で調べ、自分なりの葉っぱ図鑑を作りあげることができた。3年生は、愛甲小に生き物を増やそうと、シジュウカラの巣箱を作成した。鳥についての話を聞いたあとで、自分たちでのこぎりや金づちを使いながら巣箱を作り、ふれあいの森や校庭の木に設置した。「早く、シジュウカラ来ないかな。」と巣箱を眺めながら、多くの児童が心待ちにしている。4年生は、学校の近くを流れる玉川を実際に歩きながら、鳥や魚などの生き物、植物等、玉川の自然について学んだ。5年生では、森林を守ることにについて学習した。その中でも、ふれあいの森のような雑木林は、伐採をして再生する必要がある、その間伐材が炭として利用されていることを学んだ。学習の後で、児童は自分たちが集めた木の実や葉を使って、炭焼きを行った。木の実や葉の形のままだに出来上がった炭に感動していた。6年生は、ふれあいの森の土を集め、実験を通じて水を蓄えるふかふかの土の役目を理解することができました。また、微生物の観察を行い、いろいろな種類の生き物がいることや土壌中の小動物や菌類が関わっていること、その生き物たちの役割を学んだ。

#### ■実践成果：

身近にある自然との関わりを通じて、児童が生き物や動植物への関心や理解を高めることができた。特に、ふれあいの森では、再生活動を行っていることもあり、各学年が体験活動を通じて、自分たちの学校の自然を大切にする心情や感性を磨くことができたことは、大変意義ある取り組みであったと思う。

#### ■実践ポイント：

田んぼや畑、玉川、ふれあいの森、ふれあいの池(ビオトープ)といった多くの自然に囲まれ生活している子どもたちが、実際にふれあう体験的な活動を通じて、周りの環境への関心を高め、積極的に関わろうとする意識や身近な自然を大切にしようとする態度を育てていくことを重点に置いて、実践を行った。